

技能実習期間中の課外活動に関する取組事例 ①

令和2年度
調査結果

外国人技能実習機構

東京都 A監理団体

【監理団体概要】

実習生の国籍・人数：ベトナム6名、ミャンマー63名

実習生の職種：建築大工、鉄筋施工、内装仕上げ施工、溶接等

【ポイント】 ✓実習生の日本語能力向上のため、様々な日本語の宿題を課すなど、
実習生の日本語学習を支援

日本語学習支援の目的・概要

技能実習生に関するトラブルの多くは日本語能力不足に起因していると考えられるため、監理団体では日本語学習の支援に力を入れている。
毎月の実習先訪問時に実習1年目から3年目の実習生を対象として、下記の宿題を課している。

1. テーマを決めた作文
2. 「最近コミュニケーションを取った日本人」について
3. 日本語基本例文の暗唱と翻訳
4. 漢字練習

テーマを決めた作文について

実習生が入国後の2ヶ月目から30ヶ月目まで、それぞれの時期に合ったテーマの作文を課し、添削をしている（写真①）。毎月2つのテーマから1つを選択してもらい、A4用紙1枚に書いてもらっているが、文字数が少なかった場合は、もう1つのテーマでも書いてもらっている。この作文は実習生の気持ちを理解することにも役立っている。「仕事で困ること」、「仕事で辛いこと」など悩みを聞き出すようなテーマも用意しているので、作文を読んで必要な場合は労働環境の改善を求めるなど、実習生の心理的なケアやサポートをするようにしている。

写真①

作文テーマ					
回	入国後	テーマ	回	入国後	テーマ
1	2ヶ月目	私の帰国後の目的 不安なこと	16	17ヶ月目	先輩のこと 私の来日の目的
2	3ヶ月目	わからないこと 楽しいこと	17	18ヶ月目	母国の習慣 好きな食べ物
3	4ヶ月目	私の仕事 疲れること	18	19ヶ月目	嫌いな食べ物 感謝すること
4	5ヶ月目	休日の過ごし方 大好きな人	19	20ヶ月目	帰国してしたいこと 言いたい事
5	6ヶ月目	尊敬する人 日本に来て学んだ事	20	21ヶ月目	日本と違う習慣について 日本の老人でかかじること
6	7ヶ月目	日本の優れたところ 母国の優れたところ	21	22ヶ月目	改めて欲しいこと 一番したいこと
7	8ヶ月目	母国人について 日本人について	22	23ヶ月目	好きなテレビ番組 提案したいこと
8	9ヶ月目	自分の趣味 仕事で困ること	23	24ヶ月目	将来の自分について 怖い人・優しい人
9	10ヶ月目	好きなスポーツ 時間があればしたいこと	24	25ヶ月目	自分の短所 自分の長所
10	11ヶ月目	感謝すること 心配なこと	25	26ヶ月目	家族のこと 辛抱していること
11	12ヶ月目	友達について しかたなかったこと・ほめられたこと	26	27ヶ月目	日本の優れた技術 仕事で楽しいこと
12	13ヶ月目	生活で困ること 日本人の仕事の仕方	27	28ヶ月目	仕事で辛いこと 好きな日本語の言葉
13	14ヶ月目	母国人の仕事の仕方 自慢したいこと	28	29ヶ月目	母国の家族に感謝すること 食卓のみなさんに感謝すること
14	15ヶ月目	前の自分と変わったこと 日本に来て、よかったと思うこと	29	30ヶ月目	半年後、帰国すること
15	16ヶ月目	心配なこと わからないこと			

技能実習期間中の課外活動に関する取組事例 ①

令和2年度
調査結果

外国人技能実習機構

東京都 A監理団体

「最近コミュニケーションを取った日本人」について

実習生が日本語を話す機会を増やし、日本人とのコミュニケーションを促進するため、毎月、実習生に「最近コミュニケーションを取った日本人」について、A4用紙に話の内容や感想等を記入し提出してもらっている。初めのうちは日本人社員の方から話しかけたと思われる内容が多いが、段々と実習生から話しかけた内容が報告されてくる。

日本語基本例文の暗唱と翻訳

毎月、日本語教材のN5,N4レベルの基本文章30～36文を実習生に課題として出し、通訳人と一緒に実習生を訪問する際、実習生に基本文章の暗唱と母国語への翻訳をしてもらっている。暗唱が上手にできる実習生は日本語の上達も早く、普段から日本語の勉強を頑張っているかの目安にもなっている（写真②）。

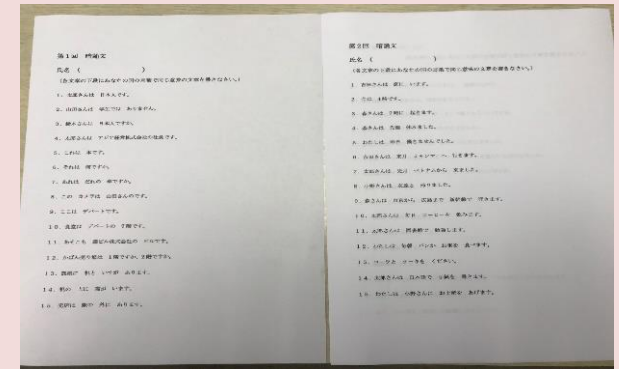
漢字練習

漢字を覚えるには筆順を知ることが大切であるという考えから、監理団体ではN5からN3レベルまでの漢字筆順表を作成し、漢字練習をしてもらっている（写真③）。

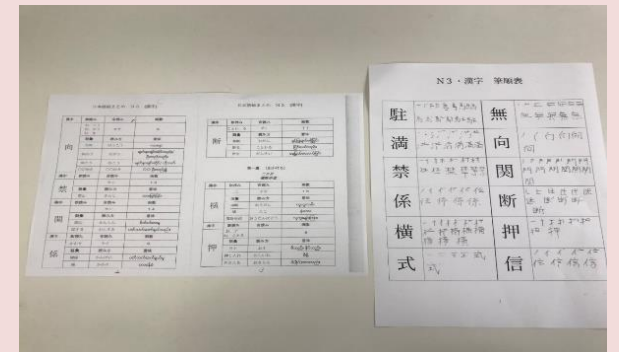
今後の展望

監理団体では日本語学習支援について、宿題に向き合う実習生の態度を測りながら、実習生それぞれに合った技能実習生活を探る手段としても活用している。実習生と勉強方法の話だけでなく、技能実習や生活に至るまで話題を広げ、様々な情報を得ることができている。今後、目標としている技能実習中のN3合格のため、宿題の内容や分量、自学自習の継続を促すための方策を検討している。

写真②



写真③



技能実習期間中の課外活動に関する取組事例 ②

令和2年度
調査結果

外国人技能実習機構

東京都 T監理団体

【監理団体概要】

実習生の国籍・人数：ベトナム約300名

実習生の職種：耕種農業、畜産農業、建築大工、型枠施工、鉄筋施工、
とび、建設機械施工、加熱性水産加工食品製造業、
非加熱性水産加工食品製造業、パン製造、そう菜製造業、
医療・福祉施設給食製造、プラスチック成形、塗装、自動車整備等

【ポイント】 ✓日本語作文コンクールや日本語能力試験の模擬試験等を通して、
技能実習生の日本語能力向上を支援

日本語作文コンクール

JITCO（公益財団法人国際人材協力機構）が毎年実施している日本語作文コンクールを知り、監理団体でも実習生の日頃の日本語学習の成果を発表できる機会を作ろうと、2020年2月から日本語作文コンクールを始めた。第1回目の作文のテーマは自由とし、A4サイズ400字詰め原稿用紙3枚以内の本人自筆原稿と関連写真を募集したところ、34名の実習生から応募があった。選考の結果、最優秀賞1名に賞金1万円、優秀賞4名に賞金5千円、参加者全員に図書券とオリジナルボールペンを授与した。優秀作品は冊子にして実習実施者に配付した。そして、応募作品全てに講評を記載してから実習生に返却した。実習生が書いた作文には、家族への思いや望郷の念、将来の夢、どのような思い・決意で来日したか等が綴られており、監理団体では普段知ることのなかった実習生の気持ちを理解することに役立ち、また、大きな感動と元気をもらった。実習生は作文を書くことで日本語能力が向上し、自分の気持ちを見つめて整理し表現する良い経験になったと思う。

日本語能力試験の模擬試験および対策講座

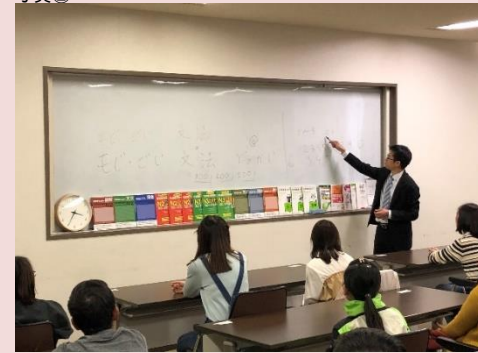
日本語能力試験において、自分の実力よりも上のレベルを受験する実習生が多いため、監理団体では自分の現在のレベルを確かめ、勉強の励みにしてもらうことを目的として、2019年3月から模擬試験を実施している。模擬試験は地区ごとに実習実施者の会議室等を借りて実施している。第1回目のN2とN3の模擬試験は39名の実習生が受験した。模擬試験は過去の問題を利用して試験時間も合わせ、机上には受験票と鉛筆と消しゴムだけを置いてもらう等、試験の受け方にも慣れてもらいたいため、本番と同じ様な状況で受験してもらった（写真①）。模擬試験終了後、隣の実習生と答案を交換し採点をしてもらい、成績順に1位から15位までを優秀者として発表した。そして、監理団体のベトナム人スタッフが学習法や教材の選び方を教える日本語能力試験対策講座を実施した（写真②）。2回目の模擬試験では試験終了後に交流会を開催した。交流会では警察署に講話を依頼して、実習生が巻き込まれる事件についての講義もしてもらい、実習生への注意喚起を行った。模擬試験の実施は、違う実習先や違う職種の実習生が一堂に会する機会にもなるので、顔を合わせて近況報告をする同窓会のような交流ができる場としての意義も大きいと思われる。

写真①



模擬試験

写真②



対策講座

技能実習期間中の課外活動に関する取組事例 ③

令和2年度
調査結果

外国人技能実習機構

香川県 H監理団体

【監理団体概要】

実習生の国籍・人数：ベトナム34名、インドネシア 107名

実習生の職種：農業関係、建設関係、食品製造関係、塗装等

【ポイント】✓実習生と地域社会との交流を図るため、様々なイベントや体験活動を企画し、積極的に機会を提供

アート作品展の企画

2020年9月、JICA四国と香川県青年海外協力協会の共催、香川県と県内各市国際交流協会の後援、監理団体等の協賛で在留外国人のアート作品展を開催した。同作品展は監理団体の職員が運営委員として企画・運営にあたった。開催したきっかけは多くの技能実習生が趣味として、写真、イラスト、クラフトアート、UVレジンによるキーホルダー、アクセサリなどの制作に取り組んでいることを知り、作品を多くの人に知ってもらいたいと考えたことである。作品は平面部門（油彩・水彩・アクリル・日本画・版画など）、立体部門（彫刻・工芸・陶芸・手芸など）、写真部門の3部門で募集した。監理団体では実習実施者に案内すると同時に、SNSにより実習生に周知をした。実習生のSNSに素敵な写真が掲載されているのを見つけた際は、応募するよう声もかけた。また、監理団体で作品を集め、まとめて応募したり、大きな作品は運搬を手伝った。応募作品数は120ほどで、監理団体の実習生からは約70作品の応募があった。作品はJICA四国フリースペースと香川県国際交流会館で約3か月間交互に展示された。表彰式は11月7日に行なわれ、監理団体の実習生からは、平面部門の最優秀賞1名、写真部門の優秀賞2名、立体部門の優秀賞1名、香川県青年海外協力協会OB会賞1名の計5名が受賞した。この作品展を開催したことで、実習実施者は実習生に対する理解を深め、地域住民も実習生に親しみをもってもらえるなど有意義な機会となった（写真①）。

写真①



アート作品展表彰式

長寿大学の受講生に実習生がスピーチ、地元ケーブルテレビにも出演

2020年7月、さぬき市役所で開催した男女共同参画講演会で監理団体の職員が高齢者学級「生き生き長寿大学」の受講生に「世界は面白い！～香川からつながるひろがる国際交流の輪～」と題して講演をした。その中でインドネシア人実習生が、さぬき市の印象、嬉しかったこと、将来の夢などについて、日本語でスピーチをしたところ（写真②）、大変好評だったため、地元のケーブルテレビにも出演した。

写真②



「生き生き長寿大学」受講生へのスピーチ

技能実習期間中の課外活動に関する取組事例 ③

令和2年度
調査結果

外国人技能実習機構

香川県 H監理団体

小・中学校で母国の紙芝居を披露

教育委員会から依頼を受けたボランティアグループが、小・中学校で月に1回、朝の15分間に本を読み聞かせる活動を行っているところ、監理団体も参加することになり、2019年から実習生に紙芝居をしてもらっている。監理団体では毎回違う実習生にお願いをしており、当日までに日本語の練習時間を設け、発音指導やアドバイスをしている。紙芝居は10分間行い、残りの5分間は生徒からの質問に答える時間にして交流を図っている（写真③）。

小学校の授業で実習生がスピーチ

2021年1月、地元小学校からの依頼で監理団体の職員が環境教育の授業を行った。この授業の中でインドネシア人実習生2名にスピーチをもらった。授業の内容はゴミに関するもので、実習生たちは川ゴミの調査や母国のゴミ事情について生徒に分かりやすく説明をしていた（写真④）。

中学生と実習生がWeb会議ツールを通じて交流

2021年3月、地元中学校において、「YOUは何しに香川県へ？～地域で働く技能実習生について知ろう～」というタイトルで、中学生と実習生がWeb会議ツールを通じて交流するイベントを開催した。

イベントでは実習生の自己紹介、香川県の技能実習生について、インドネシアの紹介とクイズ、やさしい日本語についてのワークショップ、インドネシアの紙芝居、中学生から実習生へインタビューをもらった。インタビューでは活発に質問が出ていたが、実習生たちは緊張しながらも、しっかりと受け答えをしていた。今後、新型コロナウイルス感染症が収束したら、中学校を訪問して交流を深めたいと考えている。中学生にとっては国際理解を深める機会に、実習生にとっては日本人と交流をもつ良い機会となった（写真⑤⑥）。

写真③



中学校での紙芝居

写真④



環境教育授業でのスピーチ

写真⑤



写真⑥

